

アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2023成果展

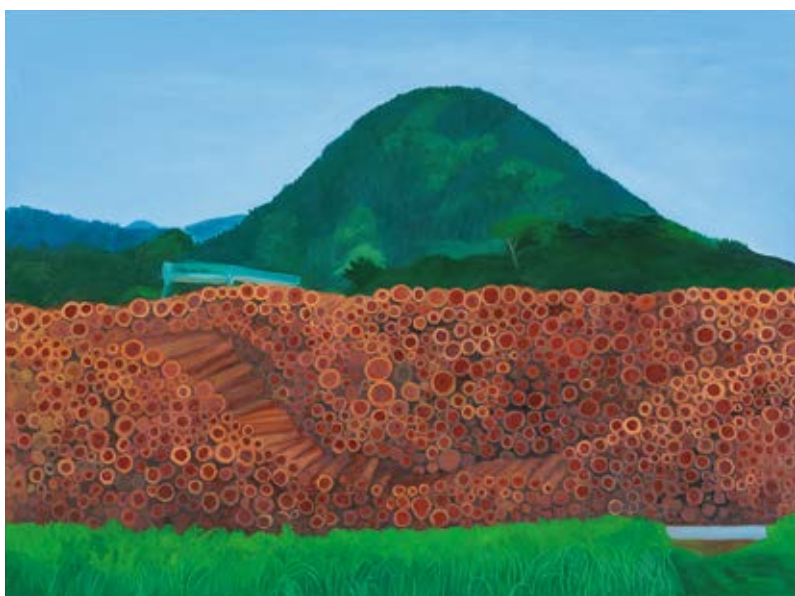
石垣克子

ISHIGAKI Katsuko

海・島・山

ちつづきの

暮らし



会期

2023.12.2

±

2024.2.12

祝



主催：つなぎ美術館（津奈木町） 協力：佐喜真美術館 南西医療器株式会社 助成：一般財団法人自治総合センター

つなぎ美術館
TSUNAGI ART MUSEUM

上から『福浜展望所からの眺め』2023年、『六々と山形木場』2023年、『津奈木舞鶴城公園からの眺め』2023年 すべて作家蔵

1967年、沖縄県石垣市に生まれた石垣克子は、沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科を卒業すると、中学・高校・大学に非常勤講師として勤めながら沖縄を拠点に制作を続けてきました。在日米軍専用施設・区域の約7割が集中するという沖縄県。一部では返還が進み新たな街が造られるなど、米軍基地を巡る風景は刻一刻と変化しています。そのような中、確かに存在する基地のある日常を画家として記録し、人々の記憶に留めるため、2018年に描き始めたのがシリーズ「基地のある風景」です。沖縄の基地問題が住民を分断してきたように、津奈木町を含む水俣病の被害地域では、原因企業ももたらした経済的恩恵と健康被害が住民を分断してきたともいわれています。8月から「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2023」の招聘作家として約3か月間、不知火海に浮かぶ島々や周囲に広がる山々を望みながら人々と交わり、制作に臨んだ石垣の目と心に津奈木町や近隣地域の日常はどのように映ったのでしょうか。本展ではシリーズ「基地のある風景」と今回の滞在で描いた新作を展示します。



《舎舎場テラスハイツ(米軍海兵隊施設)Ⅱ》2018年 佐喜真美術館蔵



《フェンスのある風景Ⅱ》2023年 作家蔵



《ちぎれ雲(牧港補給地域 キャンプ・キンザー)》2018年 作家蔵



《幸喜公園からの眺め》2020年 個人蔵



《3号線からの眺め・水俣》2023年 作家蔵



関連プログラム

アーティストの話を聞きながら展示室を巡ります。

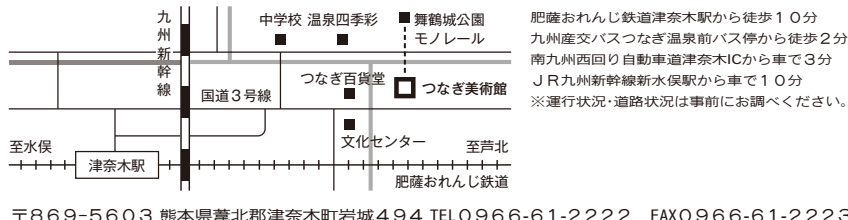
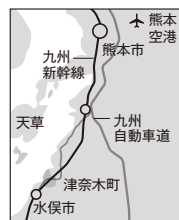
アーティストトーク ゲスト 石垣 克子

12月2日 | 土 | 会場：1・3階展示室 参加費：観覧料
14:00~14:30 定員：20名(申込不要・当日先着順)

2007年に出会ったふたりが作品の変遷と現在について語ります。

記念対談 ゲスト 天野太郎 × 石垣克子 (東京オペラシティアートギャラリー) (チーフキュレーター)

12月3日 | 日 | 会場：1階展示室 参加費：観覧料
14:00~15:00 定員：30名(申込不要・当日先着順)



会場 1・3階展示室
観覧料 一般 500円(450円)
高校・大学生 400円(350円)
小・中学生 300円(250円)

※()内は20名以上の団体料金。
※水俣市・葦北郡内の学校による利用は事前申請により無料。
※津奈木町在住または津奈木町の学校に在籍する小・中学生は無料。